

体育科学習指導案

広島市立〇〇小学校
教諭 〇〇 〇〇

- 1 日時 平成19年11月〇日 (〇)
- 2 学年 第5学年〇組
- 3 単元名 「跳び箱運動」
- 4 授業づくりの考え方

運動の特性

跳び箱運動は、いろいろな高さや向きの跳び箱を、切り返し系または回転系の技で跳び越すことで、楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

高く設定された場を跳び越したり、新たな跳び越し方に挑戦して跳び越したりするという運動は、体を浮き上がらせる気持ちよさを味わうことができるだけでなく、「自分の力で跳ぶことができた。」という達成感を感じることもできる。このことは運動の楽しさを感じるとともに、運動に対する自信につなげることができる。

また、技が完成するまでのステップを細かく設定することで、「跳べた」「跳べない」だけではなく、「ここまでできた」という達成感を味わうことができる。

子どもの実態

本学級の子どもの新体力テストの結果から、柔軟性に欠ける子どもが多いことが分かった。また、腕支持に必要な腕力も不十分と感じる場面も見られた。そのため、準備運動で柔軟性を高める運動をしたり、腕立て伏せや補助倒立などを取り入れたりしている。

子どもたちへの聞き取りによると「開脚跳びができる」88%、「かかえ込み跳びができる」66%、「台上前転ができる」66%であった。

アンケート調査の結果、「跳び箱運動が好き」と答えた子どもは全体の81%で、理由としては「跳べたら気持ちいいから」「高く、きれいに跳びたいから」といったものが多かった。さらに、「跳び箱運動で取り組みたいこと(複数回答可)」では「高い段に挑戦したい」84%、「新しい技に挑戦したい」66%、「技をきれいに決めたい」66%であった。

個々の運動能力には個人差があるが、運動の苦手な子どもも、体育の授業には真剣に取り組んでいる。しかし、練習方法を工夫したり、互いに助言し合ったりすることは十分とはいえない。

授業づくりの意図

- | | |
|------|--|
| 単元目標 | <ul style="list-style-type: none">○ 互いに協力して運動をしたり、安全に注意して運動をしたりしながら、跳び箱運動の楽しさや喜びを味わおうとする。(運動への関心・意欲・態度)○ 課題の解決を目指して、運動の仕方を工夫することができる。(運動についての思考・判断)○ 新しい技に取り組んだり、安定した動作で支持跳び越しをしたりすることができる。(運動の技能) |
|------|--|

単元目標を達成するために次のことを意図して授業づくりを行う。

- ① 跳び箱運動は、「跳べる」「跳べない」がはっきりとわかる運動であるので、跳べない子どもは苦手意識をもちやすい。そこで、活動の場を工夫したり、跳び箱運動の基礎となる動きを身につけさせたりする。このことにより、技能の向上を認識させたり、達成感を味わわせたりすることができる。と考える。
- ② 跳び箱運動は、個人の運動が主体であるが、子どもが互いに見合い、教え合う活動を取り入れることにする。このことにより、互いにかかわり合いながら課題を追究することができる。と考える。また、互いに見合う視点、技のポイントを明確にすることで、個人の課題も明確にできると考える。

↓

指導の工夫

課題の持ち方▲	場の設定■	評価活動
<p>第一次では、まず、いろいろな跳び越し方を紹介し、「できそうだ、やってみたい」という思いをもたせ、挑戦したい技を確認するとともに、学習の見通しをもたせることで課題を明確にさせる。</p> <p>第二次からは、学習カードを活用する。自分で運動したり、友だちの技を見たりして、学習カードと自分の動きを照らし合わせてみることで自己の課題を明確にさせる。</p> <p>また、課題をスモールステップで学習カードに示すことで、それぞれが自分の課題を適切に選択し、把握できるようにする。</p>	<p>跳び箱運動に対して苦手意識をもっている子どもには、恐怖心を感じにくいように配慮してセーフティマットを活用したり、マットを跳び箱の横にも準備したりする等の場を設定する。</p> <p>また、力強い踏み切りが意識できるようにするためにテープを貼って目安にしたり、ゴムひもを用意して越えさせたりする場を設定する。</p> <p>さらに、踏み切りや腕支持が意識できるようにするために準備運動でサーキット運動の場を設定する。</p>	<p><自己評価> 学習を振り返り、自分で「できた」「できない」を確認することができるようになる。</p> <p><相互評価> 友だちの技を見て、よいところを見つけてアドバイスし合い、互いのよさを認め合うようにする。</p> <p><指導的評価> 個々の運動の技能を高めるために、事前に一人一人の課題を把握し、個に応じた言葉かけを行う。また、学習意欲を高めるために、技術的な進歩のみならず、学習に取り組む姿勢や工夫の仕方、児童相互の協力について肯定的な言葉かけを行い、全体の場で紹介する。</p>

5 評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 跳び箱運動に進んで取り組もうとする。 ・ 互いに協力して運動をしようとする。 ・ 器械・器具の安全な使い方に注意して運動しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今できる技を把握している。 ・ 自分の力に合った課題をもっている。 ・ 課題の解決を目指して、練習の場を選んでいる。 ・ 課題の解決を目指して、練習の仕方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の力に合った新しい技に取り組むことができる。 ・ 安定した動作で今できる技の支持跳び越しができる。

6 単元の計画

次	時	指 導 過 程		
		主 な 学 習 活 動	教 師 の は た ら き か け	主 な 評 価 規 準
第一 次	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の進め方や学習カードの使い方について知る。 ○ 今できる技を把握する。 ○ 挑戦してみたい技を思い描く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで学習した技や新しい技を知り、それぞれの技を成功させるためのポイントを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習のねらいを知らせ、学習の進め方について見通しをもたせる。 ○ いろいろな技を示範することで、既習の技を想起させ、新しい技に挑戦してみたいという意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 今できる技を把握しているか。【思】 ☆ 跳び箱運動に進んで取り組もうとしているか。【関】
	2 3 4 本 時 5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> 今できる技, 挑戦したい技のポイントを知り, 練習しよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今できる技を練習する。 ○ 新しい技に挑戦する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 台上前転（必須）、首はね跳び（発展的）のポイントを考え、挑戦してみる。（段階1～2） ○ 自己の課題を明確にし、それに合った場を選択して練習する。 ○ お互いの技を見合い、助言し合ったり、できるようになったところを評価したりする。（段階3～7） ○ 首はね跳びに挑戦する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 技のポイントを確認しながら、できる技をさらに充実させる。 ○ 友達の演技を見ながらよい動きに気付かせ、学習カードに書き込ませる。 ○ よい動きの子どもがいれば、全体に紹介しよさを認めるとともに、ポイントを全体に広める。 ○ お互いの技を見合い、友達の助言から自分の動きを振り返らせ、課題を達成するための手だてを考えさせる。 ○ 場の使い方、技のポイントを意識させるため、個別に指導的評価を行い、見合うときの視点を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 自分の課題に合った運動に、進んで取り組んでいるか。【関】 ☆ 友達と励まし合って協力して運動をしようとしているか。【関】 ☆ 器械・器具の安全な使い方に注意して運動しようとしているか。【関】 ☆ 学習カードや補助具を活用して、課題の解決を目指して自分に適した練習の場を選んでいるか。【思】 ☆ 技のポイントや自分の課題について考え、課題の解決を目指して練習の仕方を工夫しているか。【思】 ☆ 自分の力に合った新しい技に取り組むことができたか。【技】 ☆ 安定した動作で今できる技の支持跳び越しができたか。【技】

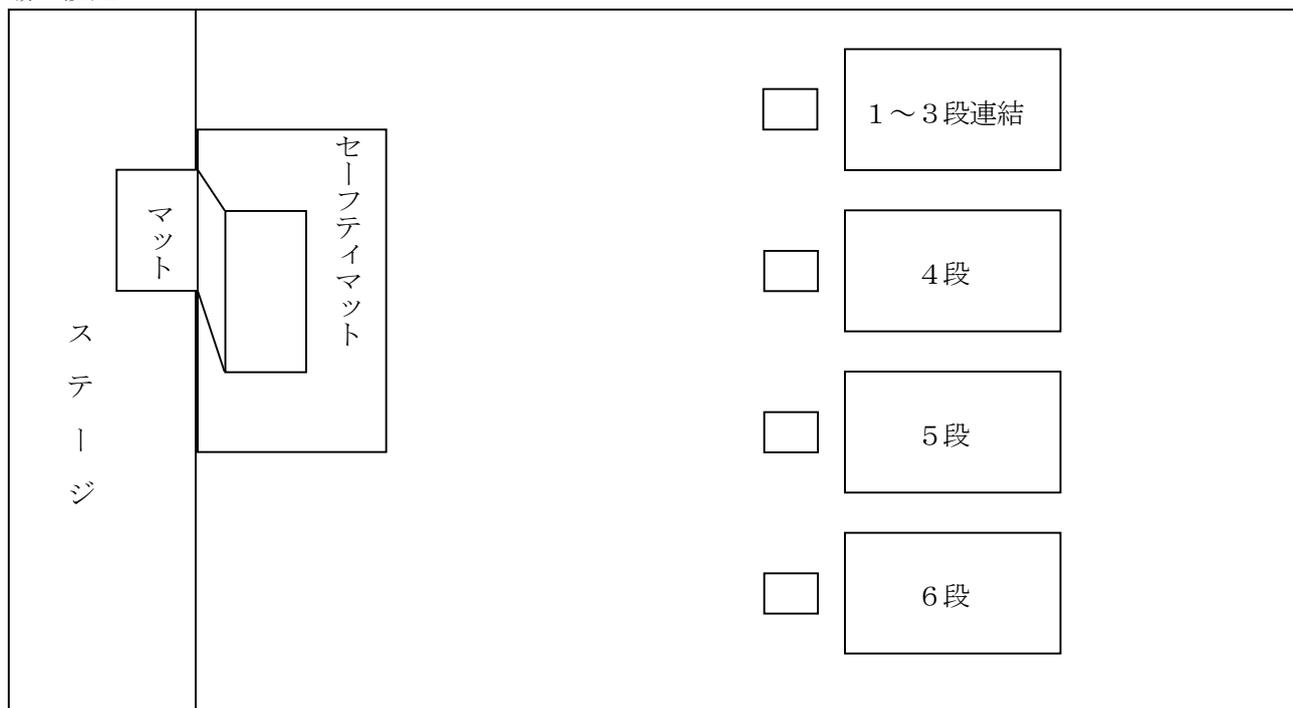
第三次	6	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>できるようになった技の発表をしよう</p> </div>	<p>☆ 自分の力に合った技や場を選択しているか。 【思】</p> <p>☆ 安定した動作で今できる技の支持跳び越しができたか。【技】</p>
		<p>○ 技の発表をする。</p> <p>○ 学習を振り返る。</p>	

7 本時の学習

目	○ 友達と励まし合って協力して運動をしたり、協力して器械・器具の準備をしたりしようとする。 【関】		
標	○ 自分の課題について、技（台上前転）のポイントを考えながら練習の場を選んで運動することができる。【思】		
	学 習 活 動	教 師 の は た ら き か け	評 価 基 準 ・ 方 法
1	体ほぐしの運動をする。	○ 心と体をほぐすことができるような内容にする。	☆ 友達と協力して器械・器具の準備をしようとしているか。【関】（観察）
2	用具の準備をする。		
3	サーキット運動をする。■ ・じゃんけんすごろく		
4	学習課題を確認する。▲		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">自分の技をレベルアップさせよう。</div>		
5	課題に合った場を選択し、練習する。▲■ ・技（台上前転）のポイントを意識しながら練習する。 ・できるようになったら学習カードに印をつける。 ・友達と見合い、助言し合う。	○ これまでの学習の流れを振り返り、自己の課題を確認させる。 ○ 「どこに気をつけた?」「どうだった?」と、技のポイントを意識させるために声かけを行う。 ○ 声かけをし合えるよう、学習カードに視点を具体的に明記させておく。	☆ 友達と励まし合って協力して運動をしようとしているか。【関】（観察） ☆ 学習カードや補助具を活用して、課題の解決を目指して練習の場を選んでいるか。【思】（観察・学習カード）
6	本時のまとめをし、次時への見通しをもつ。▲	○ 学習カードを使い、課題に対する自己評価をさせ、次時の学習課題をもたせる。	
7	整理運動と後片付けを行う。		

(▲ : 課題の持ち方に関する指導の工夫 ■ : 場の設定に関する指導の工夫)

場の設定



【参考資料】

段階	内容	評価の観点
1	マット1枚の上で前転	頭頂をつけずに前転し、立ち上がっている。
2	マットを3～5枚重ねた上で前転	トン・トン・トーンのリズムで回っている。
3	跳び箱1段を2台組み合わせて台上前転	ひざを伸ばして、腰を高くしてから回っている。
4	跳び箱1段と3段を組み合わせて台上前転	
5	跳び箱4～6段での台上前転	しっかり着手し、両足踏み切りができ、まっすぐに着地している。
6	ひざの伸びた台上前転	ひざがしっかり伸びている。
7	首はね跳びに挑戦	体の反りができている。はねるタイミングがとれている。